

令和元年度 第1回高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会  
議事録

○日時

令和元年7月11日(木) 13:30~15:30

○場所

オーテピア 4F研修室

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館館長あいさつ

議事録署名人の選出・・・秋森委員

2 議事

(1) 平成30年度事業実績及び令和元年度事業計画について

(2) オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会について

(3) その他

3 閉会

県立図書館館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

(1) 平成30年度事業実績及び令和元年度事業計画について

<委員>

きめ細かな取り組みを聞いて、今日まで一年間ご苦勞ではなかったかと思っている。朝倉に自分のところの図書室があるので、この一年間職員とも話していたけれど、事務局の説明にあったように(オーテピア開館により利用者が)減るというイメージではなくて、利用者の方も増えているというよりは、いろんな活用をしていただけるようになってきていると思っている。これからもいろんな取り組みを続けていってほしい。

<委員>

この一年、数字のほうも目標数値を達成されたかと思う。令和2年度も維持できるように頑張っていたきたい。私も図書館を時々利用させていただいている。学生さんの多さがすごく目について、席を探すのに苦勞している。大変よく利用させていただいていることを実感できる場面を見させていただいている。私はどちらかというとビジネスの分野だが、そちらの内容は数字のほうはいいのだが、どんな感覚なのか。描いていたものと現状はどうなのかというのが気になっているところ。

<委員>

事務局から今のご意見に関して、現実問題と我々がこういうことをしたい、という点の重なり具合などについて、現在の実感をお願いします。

<事務局>

ビジネス支援サービスのほうは、そんなに大胆に進むわけではなく、思っていたものとそんなに違いはない。ビジネス支援デスクという形でレファレンスデスクを設けているが、直接来館するよりは、電話やメールで聞いてくる。産業振興センターなど機関のほうが多く、個人に定着するにはまだ時間がかかる。

データベースの利用は他の図書館に比べて少なくはない。徐々に浸透していくかもしれない。直接来館じゃない形で、個人ではなく機関から問い合わせがあるというのが特徴であると思う。

<事務局>

実際にはまだまだ浸透しきれてないという思いもある。ビジネス関連の方を含め、どんどんカウンターで質問をしていただいて、ビジネスに繋げていってもらいたいところがある。ただ、定着するには徐々にでないとできない。そのために出前図書館で、ビジネス関係者の集まるところに出向いて行って地道に活動をしていく。小売店舗の方なんかにも相談に来ていただいたらそれに活かせる本もご紹介できる部分もあるので、ぜひとも図書館の価値を見出してもらいたい。

データベースも私が思うにまだまだ利用が少ない状態。それは、浸透していないというのが大きい。広報に力を入れないといけない。受ける司書の側でも経験がスキルを高めるので、ビジネス支援、医療系を含め全般のレファレンスは経験によって図書館の受け答えが素晴らしいものになっていく。私としては、最高到達点とは決して思っていない。これからの話であると思っている。

<委員>

「オーテピア完璧」と私は思っている。いつ来ても綺麗だし職員の皆さんも丁寧に対応してくださるので、気持ちよく利用させていただいている。同時に気になっていたのは、分室の利用状況。数字ではそんなに減りはないということだが、返却が増えているということなので、貸出しに来る人が減っているのではないか。私も小学生の母親だが、みんな「オーテピアに行こう」と言う。自転車に乗ってプチ冒険的に来て、綺麗なところでみんなで勉強した気分になって、帰って行って、返却は分室でというのをリアルな生活の中で感じている。だからこそ分室の在り方が問われると思う。分室の方々がどれだけ地域に自分から入って行って密着するのか、その辺りの取り組みを考えている分室があるのかお聞きしたい。

また、これは要望になるが、時間外に返却ができない分室がある。例えば、江ノ口だと入

口にボックスがあつて返却できるが、秦だと車庫が閉まっていてボックスのところまで入れない。そういう分室が何か所かある。近くで返せるから便利なはずなのに入れない。その辺りがなんとかならないかというのが一利用者としての気持ち。

#### <事務局>

市民図書館の立場では、分館と分室の存在はすごく大事。地域に密着した、根ざしたという言い方をするが、本当にそういう活動をしていただきたいという思いを含めて、6分館15分室すべて、それぞれの地元団体に委託している。地元の団体が絡んだ形で展開している。余談だが、オーテピア高知図書館ができて、たくさんの小学校がオーテピアを選択して図書館見学に来ている。私としては、本当は身近な分館分室に見学に行ってもらって、近くにあるんだということ子ども達の歩ける距離の分館分室に借りに行ってもらいたいという思いがある。数年間のニーズはこのオーテピアだと思うが、根付いてきたら大津小学校なら大津の分室へ。今も行ってくださっているのかも知れないが。小学校2、3年生が行くので、少なくとも2年生の時は大津の分館で、3年生の時はオーテピア本館というように。そういったことも各学校長さんをお願いをしながら、分室にも行っていただけるようにやっていきたいと思っている。

もう一点、秦の話。私も二年程前からすごく引っかかっている。秦も旭も返せないが、両方改修計画がある。それに合わせて秦も、夜でも車は入れることができないが徒歩では返せるように。数か所あるが、ここ数年の改修計画で、そこは是正していきたい。旭も木村会館の前のフェンスをのけようかと考えている。もう少し先になるが返せるようになる。

#### <委員>

委託されている団体というのはどういったところか。

#### <事務局>

10か所程のふれあいセンターは、地元でふれあいセンター運営委員会という組織があつて、町内会であつたり、青少教であつたり、地元のいろんな方達で組織する委員会が運営していて、そこに委託をしてそこが雇用をして活動をしている。コミュニティセンターもそう。ふれあいセンターやコミュニティセンターではないところは鏡と土佐山と潮江で、ここは学校の先生であつたり、青少教や町内会などの地域の活動をしている方が委員となつて構成された独自の運営委員会があり、その団体に委託する形で展開している。

#### <委員>

朝倉ふれあいセンターは、今言われたみたいに、運営委員会があつてそこが元になっている。活動としては、図書室に来る方に図書の貸出しをするだけでなく、朝倉は、職員が保育園3園に行つて読み聞かせをしている。土曜日と日曜日には、

月1回ずつボランティアの方に来ていただいて、読み聞かせの教室も開いている。また、広報紙の発行もしている。今は、中学校の職場体験の子がちょうど来ている。高知大学附属の支援学級の子ども達もよく来てくれて、子どもたちにインタビューを受けたり、地域の学校との活動をやっている。オーテピアができて団体でオーテピアに行くようになったので、今まではたくさんの本を借りに来てくれていたのが、少なくなった。朝倉小学校の2年生は、図書室に来てくれる。そういうように地域と密に取り組んでいる。

<委員>

ありがとうございます。そうすると地域、地域で温度差というか、どれだけ地域に入り込んでいる人が運営しているかといったところで違いがでるのかなという気がする。最終的には人との繋がりが全部だと私は思う。オーテピアが綺麗だから今は人が来るが、職員さんの質が低下していくことはよくないというのはもちろん皆さんわかっていると思う。地元の運営している方々の温かさに触れたら、絶対に返却だけに来るということはないのではないかと改めて実感した。

<委員>

お話をお伺いして私がふと思ったのは、オーテピアに来るのはある意味よそ行きという感じがある一方で、いつもの普段着の世界もあることになるかもしれないということです。地元の地域の図書館とオーテピアと比較されて説明されたが、両方の世界があることになるのかもしれない。帯屋町に出て行くだけで緊張するという意識が少しあるのかもしれない。それだけに、よい面もあるし、緊張し過ぎることにもなる。難しいけれど、そういうことに対する意識がこれからのサービスには、いるのかもしれない。

<委員>

説明の中で、社会に価値を見出してもらおう大切さがあるとおっしゃっていたが、この図書館に来て、その役割を大きく果たしているのと、図書館の役割の拡がりを感じた。この地の利のよさで、今まで敷居が高かった図書館が入りやすくなった。私は児童や子どもの観察をよくするが、学生さんにしても大人にしても課題解決の目的で来ている方は本を見たり、調べものをしているのでとても静か。取り出したものをそこですぐ読めるようなカウンターがそれぞれの場所にあって、図書館とはこういうふう本来の使い方をする人が主だったのに、児童のコーナーに行くと、すごく声の聞こえる図書館になっている。子どもたちが本を取り出してお母さんと対話したり、低学年の子ども同士で本を取り出ししたりしている。これはすごく新しい時代の図書館。今までは、静かに目的を持ってそこだけ見る。今は、小さい子が親子で来ていたり、小学校の低学年、高学年の子が来て、肩ひじ張った図書館ではなく、ちょっと気楽に地域の延長の憩いの場のように、常にその身を置いているのを見る。これは、未来への文化の投資。この子たちが大きくなった時に、図書館は私が子どもの時より、

ぐっと身近なものになる。私は図書館に来たら、いつも子どものところに座って観察して書くが、そこに人と地域の憩いの場の機能、図書館の役割の広がり、この新しい図書館の中に見える。広いテーブルがあって、大型の紙芝居が出せれる。レザーの低いソファがあって、小さい子が上がってそこで本を開く。もちろん子どものお部屋もあるけれど、なんとか「柔らかい感じ」がある。こういうことは、子どもたちが先に進んで行った時に、図書館は勉強するだけのものではなく、まず可視化で入って感じていることがメリットになるだろうと思った。小学生が自分でパソコンで検索していて、「あなた何年生？」と聞いたら「3年生」と答えた。もう自分で、パソコンを使って本の検索ができてすごいなあ。時は進んでいるがそれにかろう図書館。レファレンスサービスも、子どもにも非常に丁寧に本の説明をしていて、寄り添ったサービスができていた。

図書館に価値を見出してもらう大切さは、今見えるものと、先に投資して見えるようになるものと二つが絡み合っている。ここに図書館ができたこと、文化性の高いこの環境は高知県にとって大きな意味を持つだろうと、子どもの立場で見ても思った。来るたびに嬉しく見ている。

#### <事務局>

「会話ができる図書館」と銘打って展開している。子どもたちがお父さん、お母さんとしゃべりながら絵本が見れたりする。今までの図書館のイメージでは、狭いところだと気兼ねしたりもあったと思う。委員にそのように思っただけで、私どもも大変ありがたい。本当に、子ども達はこれからの日本、高知を担っていく人たちなので大切にしないとイケない。小さい時から読書に親しんでもらうという思いを強くして図書館活動をしていきたいと思う。

#### <委員>

学校はこの1年間、本当にオーテピアさんにお世話になった、分館分室にも同様に大変お世話になり感謝で一杯。昨今、高知県の人口が70万人を切ったというネガティブなニュースが流れるなか、このオーテピアの積極的な活動、事業、イベント、広報活動のお話を伺うと、今上昇気流に乗っているオーテピアに、ともに乗っていったら勝ちだなと感じるようなお話だった。

学校現場の先生方も、オーテピアができてまず言っているのは「本がそろっている」「よい本がたくさんある」。絵本とか子どもの図書もだが、私達教員の目線で見ると、子どもに、我が子に与える本としてもよい本が揃っていて読みやすいし借りやすい、と様々な意見があった。

また、この研修室、グループ室も、高知市教育研究会の図書館教育部会の役員会を行う時は、これまではどこかの学校になっていたが、この半年位はオーテピアでやろうと、使わせていただいている。この研修室は人気でなかなか取れないが、使わせていただいて期待もし

ている。

先程から、地域に密着したというお話が事務局からあったが、大津の3年生はオーテピアの見学とともに分室も見学する予定に、今年度はしている。では、分館分室に定着しているか、というと様々な課題がある。それは学校も一緒に、高校生で本を一切読まない人数が増えているという話がある。それでは、高校生が本を読むようになるにはどうしたらよいか。学校の立場で考えるならば、今、保幼小連携、小中連携が叫ばれていて実施されている。保幼小中高、地域の連携という中で、例えば高校生に小学校や保育園に来てもらって本の読み聞かせをしてもらおうとか。すると本を選ぶのにどんな本がよいか、高校生だから絵本は恥ずかしいというものではなく、大人でも絵本のよさがあるように、新たな子どもたちや今まで図書館を利用してなかった人に利用してもらおうというのがあったが、同じように学校現場でも、本が嫌い、図書館に興味がない子どもをどれだけ図書館というところに、絶対本が嫌いな子はいない。何か興味があるものはある。そこに光を当てられるかどうかが学校の立場であると思う。そういう意味ではオーテピアはいろんなイベント等活動をしているので、それをもっと学校の中でも活かしていけるような取り組みができないかと思っている。

学校の先生達の中にこういう声もあった。教科書で今こういう単元をしている、例えば乗り物や、和と洋の勉強をしているからそれに関係する本が欲しい。でも一気に本を借りる、返す場所としてはオーテピアは遠いので、近くの分館分室で借りる。これが分館分室を使う一番多い理由。今、何年生はこういう勉強をしている、というのが図書館に少しあると、子どもが来た時に「この勉強を僕は今やっている」「何年生でこういう勉強をするんだ」という目線で本を借りられるかもしれないといった話があった。

科学館は4年生にとってすごくいい内容で好評だった。

2年生は木曜日だったが、オーテピアにも来たいということで来た。3年生が図書館に見学で来る、4年生で科学館に行く流れが今できている。これが無くなったら、例えば他の学年が、となるとその余裕が無い。

いろんな保護者の中で、図書館に親子で来るというのは意識がある方と思う。でもそうではない方、子育てに困っている方、時間的余裕のない方が、子ども達に幼児や小学校の頃から本の面白さを感じてもらおう手立てとして、すでに行っているかもしれないが、親子で保育園、幼稚園遠足の時にオーテピアに寄るなど、先ほどの分館分室で読み聞かせをしている話があったように、そのような取り組みをどんどんしていくとよいと思う。

いずれにしても、学校現場も学校図書館の取り組みを更に伸ばしていくことを考えている。学校図書館とオーテピアや分館分室のつながりも含めてこれからの教育にとって大事なところだと思っている。

#### <事務局>

子どもたちへの図書館のサービス、学校連携もすごく大事だと思う。そういう意味でいうと学校図書館のSLA協議会もそうだが、先程もあったが、市教研の図書館部会の方々とも

連携してよりよいサービスにしていきたい。

單元ごとの貸出しセットは、用意はしているが、各学校で単元の進み方が一緒なので、一つに貸してしまうとその本は無いという状況になる。そういう意味では予算に限りがあるので、学校図書館でそのような本が購入できたらよいと思う。

保育園、幼稚園については、全園ではないが、ちょこちょこ見学に来ていただいている。

第3次高知市子ども読書活動推進計画を当協議会の委員の方にも入っていただき策定している。そういったところも計画的に反映していけたらと思うし、これからも学校連携をぜひともよろしく願いたい。

## (2) オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会について

### <委員>

予約について、利用者の方からよく聞くのは、なんとか大賞とかなんとか賞を取った人気の本は何か月も待たないといけないというのがあって、冊数をたくさん買えば早めに回せるのでしょうか、そのあたりサービスという点ではどうか。

### <事務局>

結局同じ本を何冊か複本を購入するという対応にならざるを得ないが、そうすると何年か経ったあとには余るということになるし、あとは高知市民図書館の分館分室もあるので、そういった形で対応できるような購入はしていると思う。

県立図書館の方で言うと、資料費の予算のこともあるので、なかなか複本を何冊もというのは。できるだけ新鮮な資料をたくさんそろえるようにしているが、悩ましい問題でもあると思っている。

### <事務局>

図書館でどっさり買って、借りられてしまうので売れないというのも背景にある、6分館15分室あるので1つの図書室、図書館に1冊というように、本当にニーズの高い本は市民図書館では昔から買っている。

都会ではもっと凄く1年待ちなどあるが、市民図書館では最高で200日か150日。又吉さんの『火花』が今までの最高記録だったと私は記憶している。都会に比べれば少ないし、分館分室がある分回るのは早いですが、それでもお待ちになられる方が、なかなか順番が来ないと待っておられるのも理解している。しかしながら、今後も含めてめちゃくちゃ同じ本を買うというのはできないと思う。

### <委員>

予算の限られた範囲でサービスを充実させるというのが、永遠の課題かもしれない。また名案がありましたらご提示いただけたらと思う。

それでは、ひとつだけ私の方から。開館から1年の間に、ユーザーから実際にいろんなご意見が届いているだろうと思うが、その意見を反映して行ったことの成果。なかなか時間がないだろうとは思いますが、何とか整理して我々のサービス計画と突き合わせた形で少し整理する必要があるかと思う。長期戦になりますけども、ある程度そういうことをして、具体的なサービスを要求されている点から行き届かない点まで、ユーザーからいただいたご意見と、我々が提供したいサービスをすり合わせておく必要があるかと考えている。その辺りよろしくお願ひしたい。

#### <事務局>

今も利用者の方からいただいた、例えばカウンターでこういったご意見があったとか、あとは「利用者の声」という一階のエントランスに箱を置いて記載していただくようにしている。そういったものについては全て整理をして、それに対する対応もこういう形ですと職員全員で情報共有している。直ぐに対応できるものについては、できるだけ対応していくようにしている。

あとは例えば設備などの問題で、予算とかが必要なものについては直ぐにということにはならないが、基本的にそういった形で色んな利用者の方からただけのご意見というのは、すごく大切なものだと思っているので、今後も引き続いてできるだけ直ぐに対応できるものについては、やっていく。そういった面で改善をしていくことにつなげていくようにはしている。

#### <委員>

なぜ申し上げるか説明すると、私自身が苦い経験があつて、大学図書館で学生の要望を聞いて対応したつもりだったが、学長だったと思うが、どうしてそれをきちんとホームページに載せないのか、こういう要望に対してはこういう対応をした、というのをちゃんと書いたほうがよいのではというご指摘を受けた記憶がある。大変でしょうが、こういう声に関してはこういう対応をさせていただきましたとか、予算の関係で検討中ですとか、誤解があつて勘違いをされているとか、それでもかまわないが、何らかの形でホームページか何かで忘れずに対応をしていますということを公にした方がよいような気がする。その辺もご検討いただければと思う。

15時30分協議終了

令和元年度 第1回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和元年7月11日(木)

○委員

オーテピア 4階研修室

役 職 等	氏 名
高知県学校図書館協議会会長 高知市立大津小学校長	岡林 宏枝
高知市朝倉ふれあいセンター長	秋森 眞五
元 高知県社会教育委員	尾崎 美樹
特定非営利活動法人カンガルーの会理事	前野 當子
高知県商工政策課インターンシップコーディネーター	片岡 浩司
高知大学特任シニアプロフェッサー	加藤 勉

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名
高知県立図書館	館 長	渡辺 憲弘
	図書館副館長	上岡 和代
	専門企画員(司書育成・サービス推進担当)	山重 壮一
	企画調整課長兼チーフ(企画調整担当)	岡村 祐人
	チーフ(総務担当)	森本 由香
	チーフ(図書利用担当)	谷岡 祥子
	チーフ(支援協力担当)	尾形 千晶
	企画調整課 司書	鈴木 章生
	企画調整課 司書	上岡 真土
	企画調整課 司書	森澤 奈那
	企画調整課 主査	高橋 春菜
	企画調整課 司書	徳広 淳美
高知市民図書館	館 長	貞廣 岳士
	副館長	高橋 直人
	利用担当管理主幹	武井 一仁
	図書利用担当係長	弘瀬 聖子
	図書利用担当係長	西内 久代
	資料担当係長	依光 麻希
	管理担当係長	小菅 隆
高知県 生涯学習課	課長	三觜 美香
高知市 図書館・科学館課	課長	高石 敏子